

## バングラデシュ サイクロン「シドル」被災者救援活動 報告書

特定非営利活動法人

シャプラニール=市民による海外協力の会

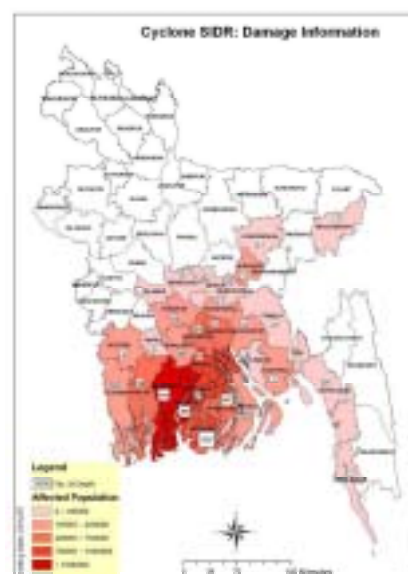
### 1. はじめに ~救援活動の背景と概要~

2007年11月15日夜にバングラデシュ南西沿岸部を襲ったサイクロン「シドル(Sidr)」は、被災者は公式発表で890万人(バングラデシュの総人口は1億4,000万人)、死亡者も少なくとも数千人から1万人に上るとも考えられているが、正確な数は把握できていない。

シャプラニール=市民による海外協力の会は、11月21日から第一次緊急救援活動を開始。続けて実施した第二次・第三次緊急救援活動まで、いずれも特に被害が大きく、かつ他の支援団体の救援活動がほとんど届いていない地域・被災者を対象とし、食糧や防寒具など緊急支援物資の配布の他、安全な水の確保、被災児童たちに対する精神面も含めた支援センターの運営など、緊急に必要とされている活動を行った。現在も進行中の第四次緊急救援活動では、将来のために重要な中等教育終了試験(3月実施予定)を控えた子どもたちに参考書などを配布するなど、通常の救援活動では見落とされがちな支援を実施中である。

### 2. 活動実施地域

バングラデシュ バゲルハット県ショロンコラ郡、  
 クルナ県ダコーブ郡モングラ港周辺(以上第一次・第四次緊急救援活動)、  
 ボルグナ県アムトリ郡、中央郡、パトルガタ郡、バムナ郡、  
 ポトゥアカリ県コラパラ郡、  
 ピロジプール県マトバリア郡(以上第二次緊急救援活動)、  
 ゴバルゴンジ県コタリパラ郡(以上第三次緊急救援活動)。



サイクロン被災地  
 (色の濃い部分が被害が大きかったところ)

### 3. 実施期間

第一次緊急救援活動： 2007年11月21日～12月28日

第二次緊急救援活動： 2007年11月27日～12月3日

第三次緊急救援活動： 2007年12月4日～12月16日

第四次緊急救援活動： 2007年12月28日～継続中(2008年2月7日現在)

## 4. 活動報告

### **第一次緊急救援活動：**

被害の大きかった地域で、緊急に必要とされる支援を実施。事前にスタッフを現地に派遣し、被災程度が大きく、かつ他の機関による救援があまり入っておらず、支援の必要性の高い地域を慎重に選定した。

食糧・衣料配布（実施団体-JJS）： 1,100 世帯への食糧・衣料配布：

（食糧） 1 世帯あたり米 10kg、ダール豆 2kg、大豆油 900ml、経口補水塩（下痢などによる脱水症状の治療に使われる）5 パック、ろうそく 6 本、マッチ 2 箱、コップ 1 個。

（衣料） 1 世帯あたりサリー（女性の衣服となる一枚布）1 枚、ルンギ（男性の腰巻布）1 枚、毛布 1 枚



被害にあった村の様子。家が全壊している



支援物資を受け取った女性と子ども

池の浄化活動（実施団体-JJS）：

同じくシヨロンコラ郡において、50 の池の浄化作業を実施。サイクロンにより倒木や家畜の死骸が池の表面を埋めてしまう状況は、水が使えないだけでなく、伝染病の蔓延にもつながる危険なものであったため、50 ヶ所で手作業による浄化作業を行った。受益世帯数は 250 世帯ほどである。

子ども支援センターの設置と運営（実施団体-JJS）：

モングラ港という港湾地域でセックスワーカーとして働く女性たちの子ども 55 人を対象に、給食（昼食）と心身のケアを提供するセンターを設置し、1 ヶ月間運営することとした。平時から厳しい社会的差別を受けているセックスワーカーの女性たちは頼れる親族などもほとんどなく、その子どもたちがサイクロンで経験した恐怖を癒し、安心して過ごせる場所を提供することは急務であった。

**第二次緊急救援活動：**

サイクロンからほぼ 10 日を経た第二次の活動では、保健衛生の向上と住環境の改善に力点を置くと共に、活動地域を拡大した。

住居・生活用水・飲料水の確保（実施団体-JJS）：

第一次活動から引き続き、バゲルハット県ショロンコラ郡において活動を実施。

- 2,860 世帯へのビニールシートおよびロープの配布： 被災地域では冬場の霧が濃く、湿気と寒さが特に子どもや老人の体力を奪うことが心配されるため、簡易住居の屋根・壁として使用できるビニールシートを、特に貧困層の人々に対して配布した。
- 池の浄化作業： 58 の池が浄化され、およそ 580 世帯ほどが生活用水を取り戻した。
- 飲料水確保のための井戸掘り： 緊急用として井戸 20 本を掘削。清潔な飲用水の確保は、コレラなどの伝染病を予防するためにも不可欠であった。受益世帯数は 600 ほどである。
- 簡易トイレの設置： 伝染病予防と人々の精神衛生のために、地面に穴を掘ってコンクリート製のリングを埋め、周囲をビニールシート（上記参照）で覆った簡易トイレ 50 基を設置。



ビニールシートを使った仮設住居



子どもの力でも楽に水が出る井戸

食糧配布（実施団体-Sangkalpa Trust）：

ボルグナ県アムトリ郡ボロボギ村、中央郡 M. バリアトリ村にて、もっとも貧しい世帯を対象に食糧を配布。

- 310 世帯への食糧配布：1 世帯あたり米 14kg、ダール豆 1kg、塩 1kg、大豆油 900ml

毛布配布（実施団体-Sangkalpa Trust）：

ボルグナ県アムトリ郡、中央郡、パトルガタ郡、ポトゥアカリ県コラパラ郡、ピロジブール県マトバリア郡にて、特に貧しい人々を対象に毛布 1,507 枚を配布。

食糧配布（実施団体-SANGRAM）：

ボルグナ県バムナ郡・中央郡にて、大きな被害を受けながら、これまでほとんど救援が届いていない世帯を対象に食糧を配布。

- バムナ郡の 3 村、300 世帯への食糧配布： 1 世帯あたり米 14kg、ダール豆 1kg、塩 1kg、大豆油 900ml

- 中央郡のスラム住民、155 世帯への食糧配布： 1 世帯あたり米 14kg、ダール豆 1kg、塩 1kg、大豆油 900ml

#### **第三次緊急救援活動：**

被害は大きかったが報道などでもほとんど取り上げられず、結果的に救援が届いていないに等しかったゴパールグンジ県コタリパラ郡での活動を実施した。

食糧配布（実施団体-KSSS 並びに CDP）：

- 1,361 世帯への食糧配布：1 世帯あたり米 15kg、ダール豆 2kg、塩 1kg、大豆油 1,000ml、石鹸 1 個

毛布および衣料の配布（実施団体-KSSS 並びに CDP）：

- 防寒用の毛布 700 枚と女性用衣料のサリー 551 枚



この県では全半壊した家屋が 11 万棟近いと言われる 子ども 8 人を抱えた寡婦。救援は今まで何も来なかった

#### **第四次緊急救援活動：**

被災者の長期的ニーズを勘案し、第一次活動の活動地(バゲルハット県ショロンコラ郡とクルナ県ダコーブ郡)にて、以下の活動を実施。

受験生への参考書・ノート配布（実施団体 JJS）： サイクロン被災地の子どもたちは中等教育修了試験を受けるための参考書や文房具も水に流され、準備するにできない状況にある。そこで被災した受験生に対し、以下を配布している。

- 500 名の中等教育修了試験受験生に英語・数学の参考書を各一冊、ノート 3 冊
- 120 名の上級中等教育修了試験受験生に英語・数学の参考書を各 1 冊、ノート 3 冊

子ども支援センターの運営継続（実施団体 JJS）： セックスワーカーの子どもたちを対象にした子どもたちの精神的・肉体的健康を守るための支援センターの運営を、当初の 1 ヶ月間から 2 ヶ月延長し、計 3 ヶ月とした。

## 5 . 今後の活動および課題

サイクロン直撃から 2 ヶ月余りを経た現在、食糧支援はほぼ行きわたっているが、被災地は復興の緒についたとはまだとてもいえない状況にある。家族や友人を失ったショックが人々の心に生々しく残っているだけではない。全半壊した家の再建はまだほとんど始まっておらず、また仕事の道具や家畜などを失ったため、今後の生活の糧を得る手段を持たず、多くの貧しい被災者が政府や NGO、国際機関などからの食糧配給に頼って暮らしているのが現状である。

このような現状を鑑み、シャプラニールでは、人々が支援を受動的に受け取る「被災者」から、自分で生活を立て直していく「生活者」に戻っていくための支援が今後も必要であると考え、中長期的な復興支援を継続する計画である。具体的にはこのサイクロンで夫を亡くし、寡婦となった女性たちに家畜などを提供したり、農民に野菜の種を配布するといった方策を検討中である。また、人々の防災意識を高めるための活動も必要とされるであろう。

シャプラニールはこれからも、被災者の中でも、特に貧困層・社会的に疎外されている人々のニーズに注目しながら、被災地の復興を見守り、支援していきたいと考えている。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

以上